

南白小の未来をえがく！

令和 5 年 7 月 1 3 日

府中市立南白糸台小学校

校長 西尾 克人

校長室だより 第9号

～子供たちの未来が明るくなるように～

理科で、自然事象とどのように出会わせ、ズレを感じさせるか。

理科では、自然の事物・現象（自然事象）との出会いが大事です。

児童に自然の事物・現象を提示したり、自然の中に連れて行ったりする際には、児童が、対象である自然の事物・現象に関心や意欲を高め、そこから問題意識を醸成し、主体的に追究していくことができるように、意図的な活動の場を工夫することが必要です。

理科…3年生 物のおもさ

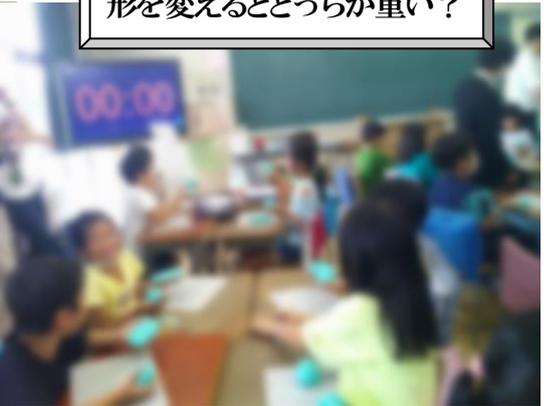
『質量保存の法則』を知っていれば、形が変わっても重さは変わらないということは、頭ではわかっています。

しかし、実際に同じ量で違う形の粘土を持ってみると、どちらが重いかわからなくなります。そんな感覚のズレを体感する自然事象との出会いで

バスケットボールとピンポン玉、どちらが重い？



形を変えるとどっちが重い？



学級で解決する問題

形が変わると、重さも変わるのだろうか？

さの感覚にズレがあることを実感しました。

定量的に重さを量る必要性を感じ始める、自然事象との出会いです。

理科…4年生 雨水のゆくえ

雨が降っている時の南白小の校庭の様子を動画で見せます。「川みたいに流れている」、「水たまりができています」などと、つぶやいています。今度は晴れている時の校庭の様子を、自分の端末で写真撮影します。この学習で学ぶことは、「水は高い場所から

問題につながるキーワード

①へこみ→高さの違い ②しみこみ方が違う



雨の日の校庭



校庭を実際に観察する

す。同量の一方の粘土は球体で、他方は自分が好きな形を作ります。班の友達の粘土を持ち、人によって重

低い場所に流れる」、「水のしみこみ方は、地面（砂、粘土、礫）によって違う」です。実際に本物の校庭を観察することで、学習内容につながる言葉が出てきます。自然事象を観察するよさを感じました。

5年生…田んぼの学習が始まりました



南白小には、小さな田んぼがあります。今年も5年生が田植えから稲刈りまで、半年かけて学んでいきます。まさに、本物体験です。総合的な学習の時間（幸が森）として、多くの地域の方々に支えられる南白小だと感じます。

実際にはだしで田んぼに入った子供たちは、「足が重い！」、「ぬるぬるしている」と本物のよさを感じていました。